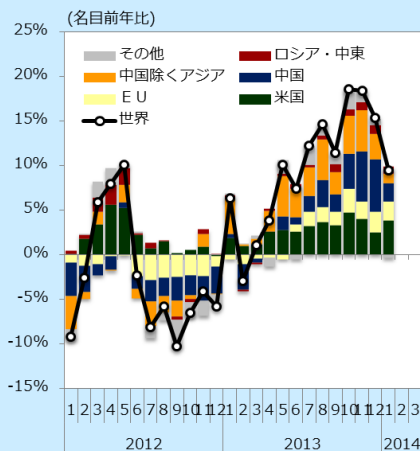


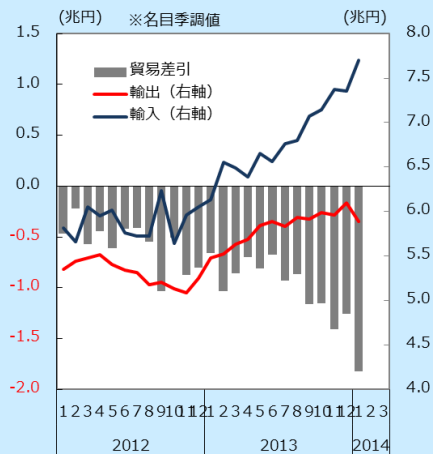
日本：貿易統計（2014年1月）

MRI Daily Economic Points
February 20, 2014

地域別輸出



輸出入と収支

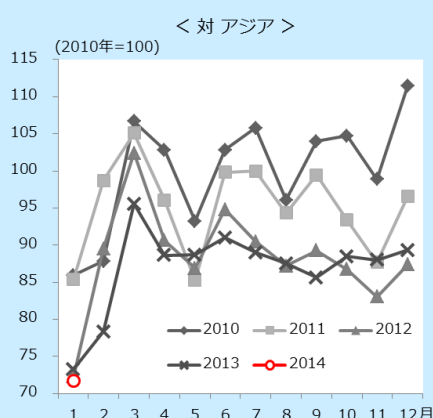
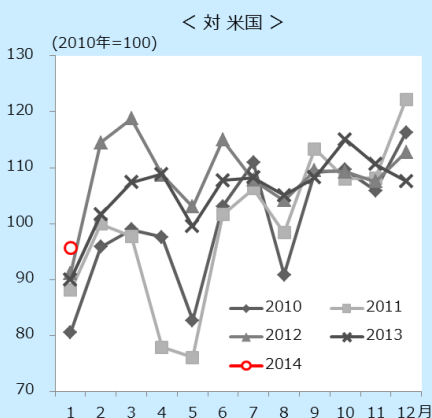


評価ポイント

2014年1月の結果

- 1月の貿易収支は、▲2.8兆円と1979年の統計開始以来過去最大を記録した。輸出が前年比+9.5%と11ヶ月連続で増加、輸入も同+25.0%と15ヶ月連続で増加。輸入額の8.0兆円も過去最大。
- 輸出は、前月（前年比+15.3%）から伸びが鈍化している。輸出物価指数の伸びが円安効果の一巡により鈍化（円ベース：同+12.6%→+7.9%）したほか、数量指数も同+2.5%→▲0.2%と4ヶ月振りに減少に転じた。
- 輸出数量を地域別にみると、EU向け（前年比+5.5%）が持ち直しつつあるほか、米国向け（同+6.3%）も堅調を維持している。一方で、アジア向け（同▲2.0%）は弱い動きが続いている。アジア新興国の景気減速やタイの政情不安等が影響している可能性が高い。
- 一方、輸入では、原油や石炭など鉱物性燃料（前年比+22.6%）が依然高い伸びを示したほか、中間財や最終消費財に至るまで幅広い品目で増加した。1-3月期は、消費増税を控え消費の盛り上がりが見込まれる中、製造業が増産体制に入っているとみられ、その分輸入が上振れしている。
- 日銀の実質輸出入によると、1月の輸出は季調済前月比▲2.3%と2ヶ月連続の減少、輸入は同+6.6と2ヶ月振りの増加となった。

地域別輸出数量指数



基調判断

- 輸出は先進国向けを中心に緩やかに持ち直しているが、輸入の増加により貿易収支では赤字幅が拡大している。

今後の流れ

- 輸出の先行きは、先進国向けを中心に緩やかなペースでの持ち直しを続けると予想する。ただし、新興国経済は、既往の金融引き締めや中国経済減速の影響から回復テンポは鈍いとみられ、新興国向け輸出は低調な推移が予想される。
- 貿易収支の赤字幅は、消費増税影響が剥落する4月以降、若干縮小するとみられる。ただし、海外生産比率の上昇など構造要因もあり輸出の回復テンポは鈍く、黒字転化は当面見込めない状況にある。

資料：財務省「貿易統計」